

資料1 (修正版)

キャンパス構想に関する入学センター報告概要

2010 年 10 月 6 日 常任理事会

2010 年 10 月 20 日 常任理事会

2010 年 10 月 6 日の常任理事会において、立命館大学キャンパス構想に関する入学センターからの報告を行った。

ここでは、大阪および兵庫を中心とした近畿圏における他大学を含む志願者状況、本学各学部の志願状況および手続き状況、学部系統別に見た場合の他大学志願者の併願先の状況などについて簡単に解説を行うことで、キャンパス構想の論議に資することとしたい。

なお、資料番号は、10 月 6 日の常任理事会において報告した際のものを示している。

1. 母体となる高校生数の状況

今回の資料には添付をしていないが母体となる高校生数は、次のような状況となっている。

大阪府：70,778 人 兵庫県：45,617 人 京都府：22,820 人 滋賀県：12,292 人

奈良県：12,194 人 和歌山県：9,651 人

上記の近畿 2 府 4 県全体では、173,352 人となり、大阪府と兵庫県の合計である 116,395 人は、全体の 67%を占めている。また、大阪府と兵庫県の合計数は、京都府と滋賀県の合計数である 35,112 人の 3.3 倍の規模となっている。

※出典：「平成 21 年度学校基本調査報告書」（文部科学省）より、高校 2 年生（全日制）の府県別生徒数＝平成 23 年 3 月高校卒業予定者数。

2. 受験生動向（大阪・兵庫エリアを中心に）

（1）地元大進学率

資料 1－2 の 1 頁において「学校基本調査」データより都道府県の大学進学者のうち、各府県に立地する高等学校から同じ府県に立地する大学への進学者の割合を見た。

この間の経済不況などの影響から、大学志願状況が「地元志向」となっていると言われているが、そのことが本データからも読み取れるものとなった。

大阪府は、2004 年度 55.2%→2008 年度 57.3%→2010 年度 58.0%へ

兵庫県は、2004 年度 43.3%→2008 年度 47.23%→2010 年度 48.3%へ

滋賀県は、2004 年度 17.1%→2008 年度 18.1%→2010 年度 20.4%へ

などと上昇している。中国地方の岡山県や広島県など地元にある程度立地している地域でも上昇傾向となっている。

（2）大阪府の志願者数ベスト 30 大学の変遷（2009 年：2004 年）

資料 1－2 の 2 頁において、表題の志願者数比較を見た。

トップ 30 大学の総志願者数は、2004 年 56,301 人→2009 年 49,706 人と全体数比では 88.3%に減少した。この中にあって、関西大学は実数では減少したが比率では 91.5%となり、関西学院大学および同志社大学は実数も増加するとともに比率では関学 118.2%、同志社 132.0%と大きく伸ばしている。本学は、実数で減少するとともに比率でも 76.5%と減少している。

(3) 兵庫県の志願者数ベスト 30 大学の変遷 (2009 年：2004 年)

資料 1－2 の 3 頁において、兵庫県における同様の比較を行った。

トップ 30 大学の総志願者数は、2004 年 60,427 人→2009 年 77,289 人と全体数比で 127.9 %と増加した。この中にあって、関西大学 138.5%、関西学院大学 174.7%、同志社大学 199.2 %と比率も実数でも大きく増加している。本学は、実数で若干の増加が見られたが、比率では 102.0%の増にとどまっている。

(4) 大阪・兵庫における占有率

上記の (2) (3) の資料からは、本学は関西有力私大の中で、大阪および兵庫における占有率が低い状況にある。

大阪では、関西大学・近畿大学・同志社大学・関西学院大学について 5 位にあり、

兵庫では、関西学院大学・関西大学・甲南大学・近畿大学・神戸学院大学につぎ 6 位の状況にある。

高等学校関係者からのヒアリングによると、地元志向との関係で言えば、大阪・兵庫（東部）では「1 時間以内」が自宅通学可能圏内として意識され、兵庫（西部）では「1 時間半～2 時間」が自宅通学可能圏内として意識されるということである。

3. 関関同立合格者状況

資料 1－2 「別紙①」では、合格者ベースでの関西 4 大学の比較を行った。2010 年 2 月実施分の入試合格者数のおおむね上位 50 校を比較している。

ここでは、本学の志願者数の特徴である全国性＝近畿圏外比率の高さが、合格者の状況にも反映していることが分かる。

近畿圏外比率は、本学 36.7%、同志社大学 11.8%、関西大学および関西学院大学はゼロとなっている。同志社においても近畿圏以外では、香川、愛知、岐阜の 3 県のみである。関西学院は、近畿内でも兵庫、大阪、奈良以外の高校は見られない。関西大学は、大阪、奈良、兵庫が大部分で和歌山および滋賀が若干見られる状況となっている。

4. 本学文社系学部志願者・手続者数上位校

資料 1－2 「別紙②」においては、各学部別に志願者数上位おおむね 100 位以上の高等学校のリストを示した。

資料 1－2 「別紙③」においては、各学部別に手続者数の上位（最低 2 名以上の手続者数）の高等学校のリストを示した。

それぞれのリストのうち、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県の 4 エリアに立地する高等学校には網掛けを行った。

「別紙②」の志願者数上位高校のリストにおいて、上記の 4 エリアからの志願者比率は、学部別に次のような状況となる。

法学部：42%、産業社会学部：70%、国際関係学部：72%、政策科学部：66%、

文学部 47%、映像学部 45%、経済学部 42%、経営学部 60%

このように、本学は志願者の「全国性」を特徴としているが、大阪および兵庫での志願者が多い学部は、国際関係学部、産業社会学部、政策科学部、経営学部などとなる。

さらに、手続者数の上位の高等学校においては、立地条件が自宅通学圏内となれば可能性として手続率の向上につながる事が期待できる。

5. 受験生併願動向

資料1－2の6頁から12頁にかけて、学部系統別の他大学志願者がどのような大学・学部との併願状況にあるのかを大手予備校の模擬試験結果から見た。

(1) 法学系統

同志社大学、関西大学、関西学院大学、神戸大学、大阪市立大学などの各法学部と本学法学部の併願＝競合関係にある。

(2) 社会学系統

同志社、関西、関西学院の各大学の社会学部との併願構造から本学産業社会学部は切れている。

(3) 国際関係学系統

関西学院、神戸市立外国語、関西の各大学の国際学部、国際関係学科、外国語学部などとの併願構造から本学国際関係学部は切れている。

(4) 政策科学系統

同志社大学政策学部と本学政策科学部との併願状況があるが、関西および関西学院との併願は切れている。

(5) 文学系統

同志社、関西、関西学院、大阪、神戸の各大学の文学部と本学文学部との併願状況が強く表れている。

(6) 経済学系統

同志社および神戸の経済学部と本学経済学部の併願関係が認められるが他の関西、関西学院、大阪、大阪市立の各大学経済学部との併願が切れている。

(7) 経営・商学系統

同志社商学部と本学経営学部に併願関係があるが、他の関西、関西学院、神戸、大阪市立の各大学の商学部、経営学部との併願が切れている。

6. 「京都ブランド」に関して

添付資料には無いが本学の志望者は、他の3大学と比べ、北海道・東北、四国・九州地域からの志願者が多い。同志社大学志望者を見ると、本学よりも地元以外からの学力優秀層が少ない。これは、「京都」というブランドだけで大学選択を行っていないと考えられる。

東海・大阪南部・九州地域での高等学校関係者からのヒアリングの限りでは、大阪での新キャンパス展開のマイナスイメージは聞かれない。むしろ、社系の学部などでは文化風土的に大阪地域の方がベターではないかという意見もある。

資料1 (修正版)

7. 高校生は立命館大学をどう見ているのか

添付資料には無いが「進学ブランド力調査 2010」（株式会社リクルート）によると、高校生の抱く立命館大学に対するイメージを他の3大学と比べると次のようになっている。

高い評価項目：国際的なセンスが身につく、学習設備や環境が整っている、教養が身につく、

低い評価項目：自宅から通える、交通の便が良い、活気がある感じがする、校風や雰囲気
がよい、学校が発展していく可能性がある、社会で役立つ力が身につく、
キャンパスがきれい、クラブ・サークル活動が盛んである、

高い評価を得ている項目もあるが、低い評価を得ている項目については、改善を行なっていくことが高校生から志望大学として選ばれていく上で重要な課題となろう。

以上